

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社緑苑		
事業所名	グループホームメープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170番地2		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600285-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”心とこととのふれあい”の理念を基に、利用者様、ご家族様と職員が共に時を重ねてきた歩みが、4
ゆったりとした穏やかな生活環境やターミナルケアに生かされている。また、職員の離職率が大変低く、
利用者様のなじみの顔として生活の安心感となり、また、職員の仕事に対する充実感が高い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームメープルは、札幌市に隣接する住宅街である石狩市緑苑台地区に位置するホームで
す。敷地内には同法人が運営する高齢者住宅やデイサービスがあり、地域の高齢者の生活を支える拠
点となっています。災害時に備え、自家発電や井戸、スプリンクラーが設置されており、利用者だけでは
なく地域住民の避難先としても活用できる堅牢な建物です。地域交流にも力を入れており、子ども野球
チームとの家族ぐるみの交流や地域貢献として冬季の除雪の協力なども行っています。ホームには家
族会があり認知症の研修を行うなど、家族にも理解を促し一緒に利用者を支えています。また、家族参
加の祭りやバーベキュー、外出行事などを通じ利用者との楽しい時間を共有できるよう取り組んでいま
す。ホームでは利用者を支える職員が働きやすく、充実感を感じられるよう職場環境や研修体制の充実
にも取り組んでおり、長く勤務する職員が多く利用者の安心につながってます。ユニットケアの良い点で
ある利用者一人ひとりを大切にしたい支援にチームとして取り組んでおり、利用者それぞれの体調に合わ
せて楽しみを持った生活を送れるよう支援しています。今後はターミナルケアにおいても家族と共に愛
情をもって支援できるよう介護技術の研鑽を行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流に関しては可能な限り地域資源を活用する努力を行っている。理念に関しては共有できている。	「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」を理念としホーム内に掲示しています。「心と心のふれあい」にはホームの中だけでなく、地域との交流も想定しており、利用者と家族、そして職員も一緒に地域の中で穏やかに暮らしていくよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんの活用や隣接のサービス付き高齢者住宅との行き来、地域の子供たちとの交流などを行っている。	町内会に加入し、地域の子供野球チームの保護者などとの交流や、ボランティアの来訪があります。地域の祭りへ出かけたり、老人会が敬老の日にお祝いのために訪問してくれます。また、隣接する高齢者住宅との交流があり、餅つきなどの季節の行事を一緒に行っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症サポーター講座、街角相談所の参加などを通じ認知症の理解を高めるとともに、近隣の方々に協力を求めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況などの報告を行い、回数を重ねるごとに、参加者から意見、アイデア等出しているようになってきている。	全家族に案内を行い運営推進会議への参加を促しています。ホームの運営の様子やユニット毎の取組みを伝えとともに、参加者とともに勉強会を行っています。運営推進会議に参加できなかった家族に対して議事録や資料を送付し、内容を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密に連絡をとり、協力した取り組みが出来ている。	石狩市の介護相談員が毎月2時間程度訪問し、利用者の話を聞いています。利用者がリラックスして相談員と話せるよう支援を行っています。相談員からのフィードバックを受けて、ホーム運営や利用者の気持ちを尊重したケアができるように取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員一人一人が理解し、1F、2Fでの連絡を取りながら拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、毎年度職員が外部研修に参加し、事業所で伝達研修を行っています。身体拘束のグレーゾーンに当たるケアについても利用者の安全と尊厳を考えながら職員が検討しています。利用者の様子は両ユニットの職員全員が把握し、適切な対応ができるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、職員間の周知徹底に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加しているが、現在は必要性が薄く職員の研修参加の機会が少ない。今後は必要に応じて職員の研修参加も検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外の日常時も含め十分な説明に心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから対話する機会を設け、また運営推進会議等を利用し、意見、要望を言いやすい環境づくりに努めるとともに反映させている。	ホーム全体の状況や行事について写真入りで紹介する「メーブル便り」は毎月、利用者の個別の様子は2か月毎に文書で送付しています。長く勤務する職員が多く、話しやすい信頼関係を築いており、家族の来訪時には職員から積極的に話しかけるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員と管理者が意見交換をすることができる環境づくりを心掛け、それと共に、カンファレンスや月例会議を通じ常に職員が話し合える場を設けている。	利用者がその日に出掛けたい場所へ出かけられるよう、職員の連携や利用者の希望を会議で話し合っています。職員は会議の他、個人面談の機会などでも働き方や目標達成に向けた自己研鑽に関わる相談も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年度より、人事考課を年2回実施し就業環境を整える努力を行っている。今後も職員がやりがいと向上心を持てる職場になるよう努力をしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すすめている。これからも全員のスキルアップの向上の為、積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会や訪問などの活動を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の関連機関との連携や家族の情報提供を参考にし、入所段階での不安を少しでも取り除く努力をしている。又、利用者の方とのコミュニケーションを積極的に取り、困っている事、不安な事など訴えて頂ける信頼関係づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話をする機会を積極的に持ち、家族の思いも尊重出来るよう、最大限努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人、家族のニーズを正確に把握し、サービスの提供、検討を行ったうえでケアプランの作成に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の尊厳を尊重したコミュニケーションを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを大切にすることで、本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーション、アセスメントを十分に行い、本人のなじみの人や、場との関係継続の支援を行っている。	利用者が行きたい場所への同行や、家族宅、友人宅への送迎を行っています。床屋や美容室も、ホーム近くの所へ案内するのではなく、遠くても利用者が親しんだ店へ出かけています。年賀状などの季節の挨拶の支援も行っており、利用者が大切にしている人間関係が継続できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで、お手伝い、レクリエーション、外出などを通じ利用者同士が深く関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談に応じられる関係性を続けられるよう努めている。（現在も運営推進会議に参加して頂いている方がいる等）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の方々と共有する時間を多く持ち、本人の思いを最大限にきみ取れる努力している。また、困難な場合もカンファレンス等を通じ、職員本位の介護にならぬよう努めている。	希望を伝えることが困難でも、その人の本質は変わらないとし、生活歴や利用者の様子から利用者の大切にしていることを理解するようにしています。職員は利用者毎に担当制になっており、ホーム独自様式の「気づきシート」も活用し利用者を支えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートなどの活用や、ご家族の話、本人との対話を通じより一層の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきシートなどを活用しながら、常に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのカンファレンスや、気づきシート、ケアプランを活用し、本人、家族と話し合いながら常に現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の作成は、利用者の介護認定更新時に併せて行っています。毎月カンファレンスで利用者の状況を確認し、入院など大きな変化があった場合には随時変更を行っています。介護計画が長期間に亘るため、細かな介護の内容は気づきシートの評価により調整を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとにフロアごとのカンファレンスや月例会議を通じ、職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最大限に柔軟な支援、サービスの多機能化という意識を持ち業務に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状において活用はしているが、今後はさらに活用できるよう意識していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	しっかりと連携を築き、24時間対応をしていただけることにより、利用者も職員も適切で安心した医療が受けられている。	入居時にかかりつけ医に継続して受診できることを伝えていますが、現在は全員が往診医を希望しています。利用者が入院した際は、利用者と家族の意向を踏まえ早期退院ができるよう医師と相談しホームの受け入れ態勢を整えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	温度版や、看護記録と共に状態に応じ受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との連携を含め、病院関係者との情報交換・相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた取り組みまでを説明しており、入居後は段階により、家族と医療関係者、職員とで話し合い、方針の共有を行っている。	終末期に向け家族と医師の話し合いの後にホームとしてのインフォームドコンセントを行っています。利用者の状況について相互に確認しながら方針を検討し、ホームでの穏やかな終末期を希望する場合にはホームの看護師が医療との連携を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っているが、今後もさらに実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や地域との協力で災害対策を築いている。（併設施設のグランドハウス緑苑に避難出来る体制が整っている）	避難訓練は年2回実施し、日中想定で行っています。隣接する高齢者住宅との協力体制が築かれています。自家発電や井戸、スプリンクラーが設置されており、地域のハザードマップを活用し災害想定を行い地域住民の避難所にもなっています。	ホームが立地する場所が住宅街の外れにあり、入り口も高齢者住宅の奥まった場所にあるため地域からの避難訓練の参加が少ない状況が続いています。今後は非常時連絡網や訓練の参加を呼びかけ災害時に備えていくことが期待されます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重度化しても最後まで人格を尊重した言葉遣いや対応を心掛けている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保は理念を踏まえ、座学で学ぶだけではなく先輩職員と利用者の関わりからも身に付けていくものとし、常に全職員が尊敬をもって利用者に接していくようにしています。利用者の安心した表情や笑顔を多く見られるように日々のケアを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や人格尊重出来る環境づくりに常に努めている。また、自身で訴えることが難しい利用者の方には可能な限り、その人らしさを重視した対応を心掛けてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や洋服の買い物を含め、日常も常に清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	宗教上の食習慣の配慮や重度の方のミキサー食（手作り）等も行っている。また、食器洗いや、食器拭き等、可能な利用者の方には一緒に参加して頂いている。	調理は隣接の高齢者住宅のセントラルキッチンで行い、盛り付けを各ユニットで行っています。利用者の希望は毎月の給食会議で調理を行う事業者に伝え、献立や調理方法に反映しています。外食に出かけたりホームの畑でイチゴ摘みなども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態を考慮し、チェック表を用いて、水分や食事を把握すると共に、常に状態の管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔状態に合わせた口腔ブラシや舌ブラシ、歯間ブラシを用いて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導を含め排泄の習慣・維持に努めている。	利用者毎に一日のリズムを把握し、声掛けを行ってトイレで排泄できるよう支援しています。基本的にはトイレでの排泄ができるようにしていますが、夜間などは利用者の身体状況により居室内にポータブルトイレを設置し安心できる環境を作り、安眠につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対応した水分や運動も取り入れ、下剤や座薬の使用を最小限に抑える努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の希望や体力を考慮し、ほぼ毎日入浴を行える体制を整えている。	入浴支援に力を入れており、週3回の入浴を実施しています。利用者の希望により早めの時間や湯の温度、職員との会話を楽しみながらのリラックスできる雰囲気づくりなどの工夫をしています。また、入浴を行わない日には足浴と足のマッサージを行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活や身体状況、その日の体調に合わせてながら、快眠につなげる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を常にチェック出来る体制を準備しており、職員が一致した認識を持ったうえでの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが残存機能を生かして、役割や楽しみを持った日常を送れるように常に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	場合によりご家族の協力を得ながら、最大限出かけられるよう努めている。	ホームの前にテーブルを設置し、気候の良い時期には外でお茶を飲んだり、ホームの畑に出かけています。個別の外出への支援の他、毎月外出行事があり花見や観光船に乗りに出かけたりと利用者の希望する外出先や自然を感じられる行楽地へ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力を考慮したうえで、家族の思いも踏まえ、可能な限り所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを大切に、中央が居間で孤独感を感じさせないよう配慮している。また、歩行や機能の妨げにならないよう整理整頓を心掛けると共に、清潔にも常に配慮し気持ちよく生活して頂ける空間作りを行っている。	食堂と居間のある共用スペースでは、利用者が快適に過ごせるようエアコンや加湿器が設置されています。木の温もりにあふれた内装で、ひな人形などの季節の飾り付けなどもされています。浴室には事業所で力を入れている入浴を安全に行えるようシャワーで温浴効果を得られるシステムも設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の空間の仕切りや、ソファの設置等を行い、一人ひとりが思いのまま自由に過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参いただいている。また、各居室の整理整頓に努め、お仏壇のある利用者の方にはご飯、お水をあげる等行っている。	利用者の居室で、それまでの生活や趣味が継続できるようにしています。裁縫が好きな利用者には、針がなくなっていないかのこまめな確認や毎日寝具の確認をするなど、利用者の生活に合わせて職員が危険がないように支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置、整理整頓を行い、転倒などのリスク回避に努めている。		